■浚渫の影響評価 ~ハビタット区分1の指標種のモデル化~

区分1の指標種のモデル化は、区分1が地盤高に関係なく砂質であることから、地盤高のみで生息可能場の予測を行った。

バカガイ n=49

- T.P.-6.8m~-1.7mに出現
- 区分1に対して約886%の 牛息節用
- 予測した牛息可能場での 出現数は38地点

フジノハナガイ n=45

TP±0.5m~-3.8mに出現

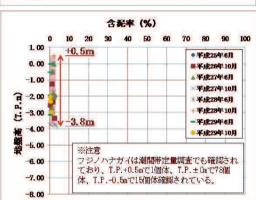
・区分1に対して約59.6%の

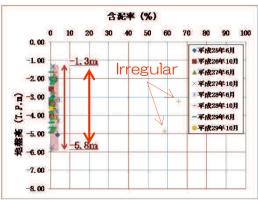
• 予測した牛息可能場での

出現数は25地点

牛息範囲

含泥率 (%) ◆平成25年6月 -1.00 ■平成26年10月 -1.7m ▲平成27年6月 -2.00 平成27年10月 (T. P. E.) 平成28年6月 平成29年6月 Irregular! ※注意 バカガイは平成29年10月の調査で出現 が確認されなかった。 -8.00







※ハビタット区分1の範囲から各 種が出現した地盤高の範囲を抽出

①区分1の面積 : 1,702,033m² ②生息可能場面積: 1,507,704m²

※区分1に対して88.6%

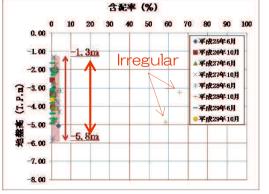
貴重種保護の 観点より非公開

①区分1の面積 : 1.702.033m² ②生息可能場面積: 1,014,050m2

※区分1に対して59.6%

ヒサシソコエビ科 n=72

- T.P.-5.8m~-1.3mに出現
- ・区分1に対して約90.4%の 牛息節囲
- ・ 予測した生息可能場での 出現数は67地点





①区分1の面積 : 1.702.033m²

②生息可能場面積: 1,538,058m²

※区分1に対して90.4%

